

【 歴代会長祝辞 】

ご挨拶

初代会長
西岡 敏雄

全国歯放技連絡協議会は今年になって創立 30 周年の記念すべき節目を迎えられたそうで、全国各歯科大学および大学歯学部教授の先生方、および各関係行政機関の方々のご指導、ご支援の賜と深く感謝を申し上げます。ありがとうございます。後輩連は今後、これを機会に益々努力して精励いたしますので、何卒関係各位様におかれましては倍旧のご指導、ご鞭撻の程を、宜しくお願い申し上げます。

さて、節目年齢の雑学として、たまには人生の要所、要所に立ち止まり、自分の来た道を巡らすことをお許し頂ければ幸甚でございます。話はずーっと昔に戻ります。

今から 30 年前にこの協議会を立ち上げようとして、安藤教授にご相談をしたことかありました。ご許可を得てからは東京医科歯科大学の中村教授を訪ねて色々のご示唆を戴いて、今後の行く道を探しました。次に北海道大学の徳井先生の元を訪れ、色々にご相談に乗って頂き、ご教示を戴いたことを思い出しました。先生は長身で怖くて優しい方でした。

「しかし、君ね国立系はすでに私が指揮をとって纏まっているので心配ないよ。」とのご返答を戴き、一時ギャフンとしたことを思い出しました。しかし、帰りには異常気象に関する単行本を戴いて帰ってきました。

ところで現在日本では、彼方此方に異常気象が発生しているようで大変ですね。そう云えば 9 月 27 日の読売新聞夕刊に次のような記事が掲載されていました。

今夏各所に甚大な被害をもたらした「平成 30 年 7 月豪雨」や気象庁が「ひとつの災害」と表現した「猛暑」、そして超大型の「台風 21 号」と異常気象が次々と発生した。これまでの常識が通用しない異常気象に対し、気象予報士たちが警鐘を鳴らし、激論を繰り広げている。

10 月 17 日の読売新聞夕刊には「秋なのに春の便り、塩素で紅葉に被害、来年のお花見は？」等が掲載されておりました。

地球環境問題の筆頭に挙げられる「気象変動」、実は温暖化を含め、気象変動で一番影響を受けるのが「水」資源だそうです。降雨のパターンが従来と変わり、渇水や洪水が起きやすくなるそうです。途上国ばかりでなく、日本においてもここ数年水の被害に関するニュースは後を絶ちません。それだけに、水資源の保全や治水のために「適切な水資源の管理や気候変動への対応が重要な課題となってくるようです。

では、日本は世界が直面する水問題に対してどんな貢献が出来るのでしょうか？

水問題と云えば、我々も昔からお世話になっているので少し気がかりです。水問題の世界的権威の教授が、東京生産技術研究所にいらっしゃるので、世界の水問題の現状による課題とか、日本が果たすべき役割などについてもお聞きしたいものです。

さて、「不感」や「還暦」など人生の節目を表す言葉が沢山あります。他にも水の放射線対策などはどうしているのでしょうか？ 次の震災には、水の面ではどう備えたら、安全な水はどう確保するのでしょうか？